

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 1 年度目（令和 6 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		1,691	t-CO ₂
（温室①を酸効除炭化果く炭ガス換算）	②非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	③メタン		t-CO ₂
	④一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑤ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑥パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑧三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑨エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑨合計）		1,691

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量
------------------	--------

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績			
	令和 5 年度		令和 8 年度		令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	
温室効果ガス総排出量		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対基準年度）			%		%		%	
温室効果ガスみなし総排出量					t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂	t-CO ₂
削減率（対基準年度）					%		%	

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績			
	令和 5 年度		令和 8 年度		令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	
原単位当たりの排出量	329	kg-CO ₂ / m ²	319.1	kg-CO ₂ / m ²	318.3	kg-CO ₂ / m ²		kg-CO ₂ / m ²
削減率（対基準年度）			3.0 %		3.3 %		%	
原単位当たりのみなし排出量					kg-CO ₂ / m ²	kg-CO ₂ / m ²	kg-CO ₂ / m ²	kg-CO ₂ / m ²
削減率（対基準年度）					%		%	

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

見える化及びA Iシステムによるエネルギー利用の推移把握を行いピークカットに努めております。

GHP空調においては経年劣化による効率低下が見られる為、設備更新を予定。空調使用においても送風利用による省エネ、空調バランス調整（冬の立ち上がりは外気を抑え、夏の立ち上がりは外気を多く入れる、湿度によってエアコンの設定を変える等）GHP空調においては経

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位当たりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量当たりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び非化石エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制等に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
省エネルギー・省資源の行動の実践・冷暖房	<ul style="list-style-type: none"> ・空調の温度管理を徹底する。 ・空調機器を順次省エネ型に切り換える。 		温度管理は適時実施。不調となっている機器については、順次更新予定。空調バランスの見直し。送風利用による省エネ実施。
省エネルギー・省資源の行動の実践・照明	<ul style="list-style-type: none"> ・使用していない部屋や・時間外の消灯を徹底する。 		注意して実施しております。場所によっては人感センサーによる入り切り管理。
省エネルギー・省資源の行動の実践・OA機器	<ul style="list-style-type: none"> ・長時間使用しない電子機器等の電源OFFの徹底 ・遊技者がいない時に省エネモードに切り替わる遊技台を採用 		機器自体で設定できる場合は、都度設定を実施。
省エネルギー・省資源の行動の実践・デマンド監視システム	全店デマンド監視システム導入により現状の使用状況、デマンド超過警告等を行いピークカットや節電意識の向上を図る。		エネルギーの見える化。タブレットを従業員全員が確認できる場所に設置。AIによって表示される省エネアクションに取り組み。

指針第2号様式

(2) 非化石エネルギーの利用の状況

ア 非化石電気の使用状況

指標	非化石電気の使用状況						目標	
	令和 6年度		令和 7年度		令和 8年度		(2030年度)	
使用電気全体に占める非化石電気の比率	17.4	%		%		%		%

イ 計画期間 1 年度目 (令和 6 年度) における非化石エネルギーの利用状況

非化石エネルギーの使用量	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
kl	t-CO ₂

(3) 未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 1 年度目 (令和 6 年度) における未利用エネルギーの利用状況

導入年度	設備等の種類	概要 (規模、性能、発生エネルギー量等)

イ アのうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	未利用エネルギーの種類	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
電力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(4) 環境価値 (クレジット等) の活用状況

計画期間 1 年度目 (令和 6 年度) におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(5) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量 (みなしの削減量) の合計

t-CO ₂

(6) 電気の需要の最適化に資する措置を実施した日数

日

指針第2号様式

(7) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

- ・社員、従業員等への環境教育を定期的実施する
- ・自動販売機のPETボトル・缶はリサイクルに努める
- ・見える化システム掲示による意識向上
- ・店舗に電気の使用状況についてヒアリングを実施
- ・ペーパーレス化の取組み
- ・EV充電設備

(8) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

- ・定時退社に努める
- ・営業時間外はエレベーターを停止する
- ・通勤に公共交通機関を使う